

I. 沿革と概要

1. 沿革

東京大学生産技術研究所は、昭和 24 年 5 月 31 日公布の国立学校設置法に基づき、生産に関する技術的諸問題の科学的総合研究と、研究成果の実用化試験を行なうことを目的として同日付で千葉県千葉市に設置された。

その後、研究所の東京移転が実現し、昭和 37 年度より東京都港区麻布新電土町に本部および各研究部位置を変更した。なお、千葉市には、千葉実験場として 101,488 m² (約 30,700 坪) が同敷地内に設けられた。

部門数は、設立当初 15 部門で、以後昭和 25 年度に 10 部門、26 年度に 10 部門、計 35 部門となり、その後、部門増として、32 年度 1 部門、35 年度 1 部門、36 年度 2 部門、37 年度 2 部門が認められ、現在 41 部門となっている。

本研究所は次表に示すような 5 部に分かれ、それぞれの部において表示されたような専門分野を担当している。

所長は、瀬藤象二、兼重寛九郎、星合正治、谷 安正、福田武雄に続いて、昭和 36 年 3 月 31 日より藤高周平が就任している。

第 1 部(基礎)——応用数学・応用光学・音響工学・固体材料学・流体物理学・応用電子学・放射線工学・材料力学・応用弾性学

第 2 部(機械・船舶)——機械力学・機構学・伝熱工学・熱原動機学・流体機械学・化学機械学・切削工作学・非切削工作学・精密加工学・溶接工学・板金および船体構造学・船体運動学

第 3 部(電力・通信)——電気回路学・電力機器学・電力工学・電力制御工学・電子管工学・通信機器学・超短波工学・応用電子工学・超高層観測機器学・超高層電子工学・電子演算工学・マイクロ波工学

第 4 部(化学・冶金)——無機工業化学・応用電気化学および光化学・有機工業化学第一・有機工業化学第二・有機工業化学第三・化学工業・無機工業分析学・有機工業分析学・鉄鋼製錬工学・非鉄金属製錬工学・金属加工学・金属材料学・放射性同位元素工学

第 5 部(土木・建築)——土質工学・土木構造学・交通路工学・水工学・測量学・建築構造学・建築環境学・建築装備学・建築生産学・建築配置および機能学・生産技術史

2. 研究所の位置・敷地・建物・配置図

A. 東京大学生産技術研究所(麻布庁舎)

a. 位置

東京都港区麻布新電土町 10 番地

国電信濃町駅下車, 都電 33 番線 電土町下車, 西南へ約 100 m.

b. 敷地・建物(面積)・配置図(凸版参照)

敷地総面積 51,592.741 m²(15,605,790 坪)

(接取未解除約 3,399 m² を含む, ただし物性研と共用)

建物数 本館 1 棟, 別棟 9 棟

建物延面積 28,521.6528 m² (8,627.8 坪)

本館 26,783.4710 m² (8,102 〃)

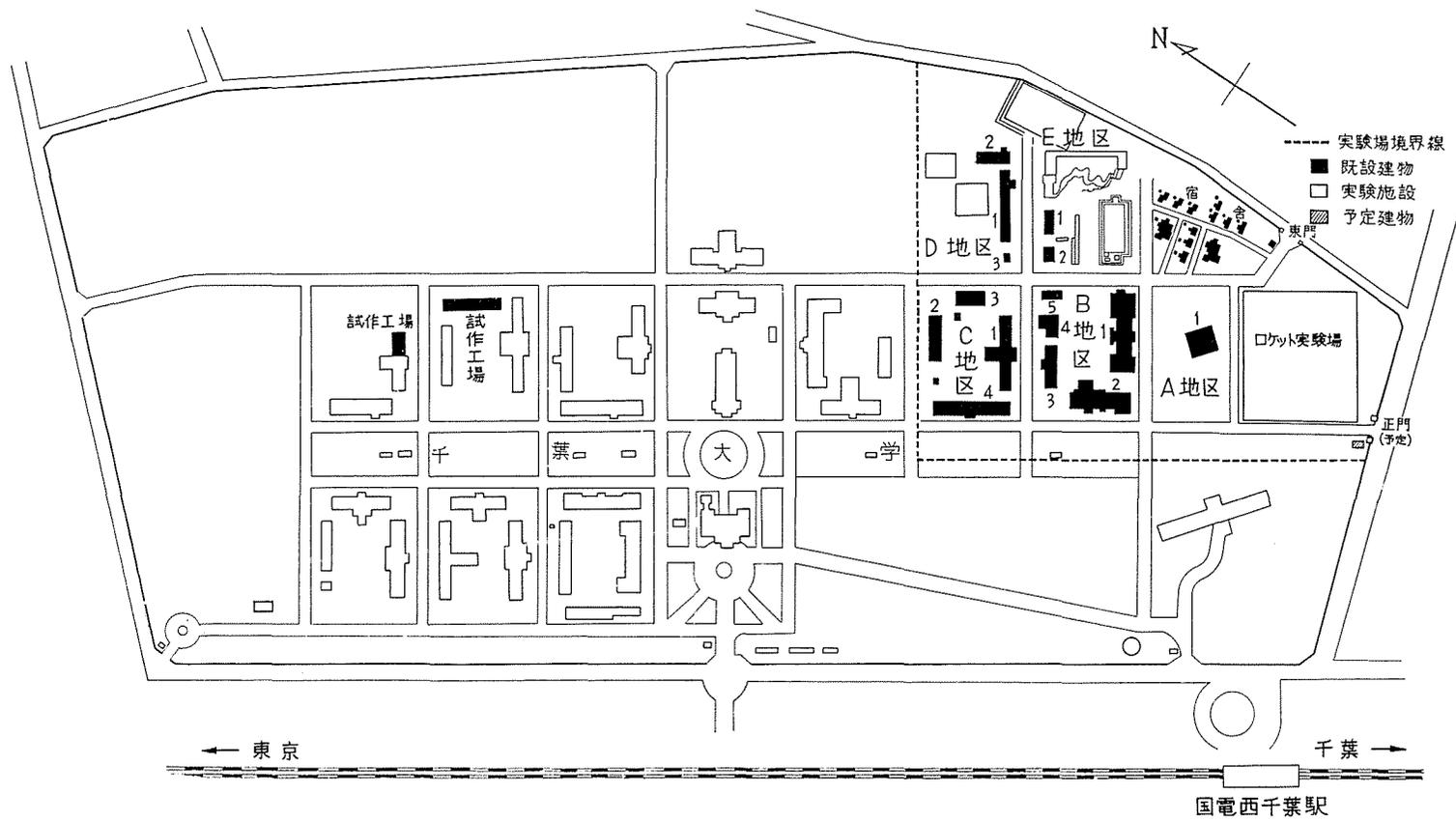
別棟 1,738.1818 m² (525.8 〃)

本館面積 26,783.4710 m² のうち, 利用面積は 24,403.3057 m² で内訳は別表の通りである。(未利用面積 2,380.1653 m² は未改装部分)

	地階 (m ²)	1 階 (m ²)	2 階 (m ²)	3 階 (m ²)	屋上 (m ²)	計 (m ²)
第 1 部	819.8347	1,880.9917	915.7024	687.6033		4,304.1322
第 2 部	1,990.0826	816.5289	945.4545	928.9256		4,680.9917
第 3 部	390.0826	998.3471	899.1735	641.3223		2,928.9256
第 4 部	515.7024	1,557.0247	1,553.7190	1,200.0000		4,826.4462
第 5 部	1,104.1322	1,047.9338	823.1404	796.6942		3,771.9008
事務部	614.8760	664.4628	1,894.2148	433.0578		3,606.6115
共通	0	0	0	0	284.2975	284.2975
計	5,434.7105	6,965.2890	7,031.4046	4,687.6032	284.2975	24,403.3057

c. 主な建物とその用途

建物名	構造	利用面積 (m ²)	所属部	主な用途
本館	鉄筋コンクリート 地下 1, 地上 3 階	24,403.3057	各部	所長室, 会議室, 各部研究室, 実験室, 居室 事務室, 図書室, 電話室, 受電室等
別棟 1	鉄筋平家建	355.2000	第 1 部	材料実験室
〃 2	鉄筋コンクリート 平家建	378.0000	第 2 部	動力実験棟(自動車, 内燃機関, ガスタービン, 水力機械)
〃 3	鉄骨平家建	142.8495	第 3 部	高電圧実験室
〃 4	〃	180.0000	第 3 部 第 4 部	暖房実験室, 醗酵実験室
〃 5	鉄筋コンクリート 平屋建	180.0000	第 4 部	R I 実験室
〃 6	ブロック平家建	113.6793	第 4 部 第 5 部	高圧化学実験室, サッシ実験室
〃 7	〃	233.9537	第 5 部	音響実験室(無響室, 残響室, 測定室)
〃 8	鉄筋コンクリート 平家建	52.1983	〃	防火実験室(地下)
〃 9	〃	102.2975	〃	床版試験室



東京大学生産技術研究所千葉実験場配置図

試作工場は本所の移転に伴い別棟（鉄骨平家建 9937.2 m²）を予定してあるが、現在米軍の接収解除が未済のため千葉市の旧本所（現千葉大学構内）の在来の位置において作業を行なっている。

d. 水道・電気・ガス・電話

水道は現在都営水道を使用しているが、新規に井戸をさく泉したので井戸水戸過装置の新設をまって自家給水を行なうことになっている。使用量は月平均 12,000 m³ である。

電気は東京電力株式会社と自家用の契約をし第1変電所 400 kVA, 第2変電所 500 kVA, 屋外変電所 287 kVA の設備を有し、各部に送電している。電力使用量は月平均 68,000 kWh である。

ガスは東京瓦斯株式会社と契約、消費量月平均 20,000 m³ である。

電話は青山局に 36 回線加入し、私設交換装置はA型自動交換機で 500 回線の容量をもち、物性研究所と共用している。なおそのうち本所は内線 200 回線を使用しているが続いて 100 回線増設の予定である。

B. 東京大学生産技術研究所千葉実験場

a. 位 置

千葉市弥生町1番地

国電西千葉駅東口下車、約 30 m.

b. 敷地・建物・配置図（凸版参照）

敷地面積 約 101,487 m² (約 30,700 坪)

建物数 18 棟、計 8,775.8413 m²

c. 主な建物とその用途

下表の通り 15 棟である。

建物所在 地区番号	構 造	延 面 積 (m ²)	主 な 用 途	旧 名 称
A 1	鉄骨、スレート・平家建	476.0330	植村研, 山田研	試験工場
B 1	木造・二階建	1,291.1404	江上研, 観測ロケット, 山田研, 事務室	東 10 号館
" 2	"	1,017.3586	岡本・北川研, 山田研, 丸安研, 野崎研	" 9 "
" 3	木造・平家建	719.2793	三木研, 藤高研 倉庫	" 8 "
" 4	木造・二階建	511.9206	福田(義)研, 河添研, 野崎研	" 7 "
" 5	木造・平家建	194.4	菊池研, 後藤研, 野崎研	" 11 "
C 1	木造・二階建	1,208.5190	池辺研, 小林研, 雀部・館研	" 6 "
" 2	木造・平家建	356.4	雀部・館研	" 4 "
" 3	鉄骨、鉄筋コンク リート・平家建	317.3553	"	特殊吹精実 験室
" 4	木造・平家建	1,215.0016	宿 舎	東 5 号館
D 1	"	641.5206	平尾研, 柴田研, 倉庫	" 13 "
" 2	"	349.9206	平尾研	" 14 "
" 3	鉄骨スレート 平家建	38.3471	受電室	
E 1	木造・平家建	194.4	野崎研, 浅原研, 井口研	" 12 "
" 2	"	122.9884	ポンプ室	